

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和元年度（2019年度）病虫害発生予察注意報第3号を公表しましたので、送付します。

## 注 意 報

令和元年度（2019年度）病虫害発生予察注意報第3号

農作物名 カンキツ類  
病虫害名 ミカンハダニ

- 1 発生地域 県内全域（カンキツ栽培地域）
- 2 発生時期 3月上旬以降
- 3 発生程度 平年比 多

### 4 注意報発表の根拠

- (1) 昨年9月からミカンハダニの発生が多い傾向にある。2月上旬に行った巡回調査においても、雌成虫の寄生葉率は13.7%（平年1.2%、前年1.5%）、10葉当たりの寄生頭数は5.2頭（平年0.2頭、前年0.2頭）であり、寄生葉率・10葉当たりの寄生頭数ともに過去10年と比較して最も多かった（図1、2）。
- (2) 本年度は12月から2月にかけて気温が平年より高く推移し（図3）、本害虫の越冬・増殖に好適な条件であった。また、福岡管区气象台が2月20日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並～少の予想であり、多発生することが予想される。

### 5 防除対策

本害虫の春期の多発生は、新葉の加害による光合成機能の低下を引き起こす。今後の気温上昇により本害虫の増殖が促進し、春期の発生が多くなると予想されることから、以下の防除対策を行う。

- (1) 発芽前のマシン油乳剤散布により初期密度を抑制する。散布の際は、樹全体にムラなくかかるよう丁寧に散布する。なお、樹勢が弱い樹では旧葉の落葉が助長される場合があるため、樹勢に考慮して使用する。
- (2) 暖冬の影響により発芽期が早まる可能性がある。発芽後にマシン油乳剤を高濃度で散布すると薬害を生じる恐れがあるので、生育状況に注意し、発芽前に散布を行う。
- (3) マシン油乳剤は商品によって使用時期や希釈倍数などが異なる場合があるため、ラベルをよく確認し、農薬登録内容を遵守して使用する。



写真1 ミカンハダニ



写真2 ミカンハダニによる被害葉

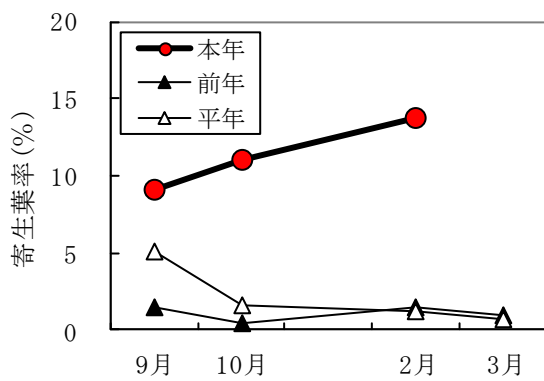


図1 ミカンハダニの寄生葉率の推移

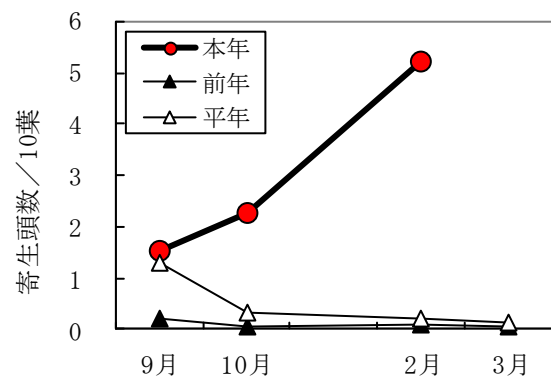


図2 ミカンハダニの寄生頭数の推移

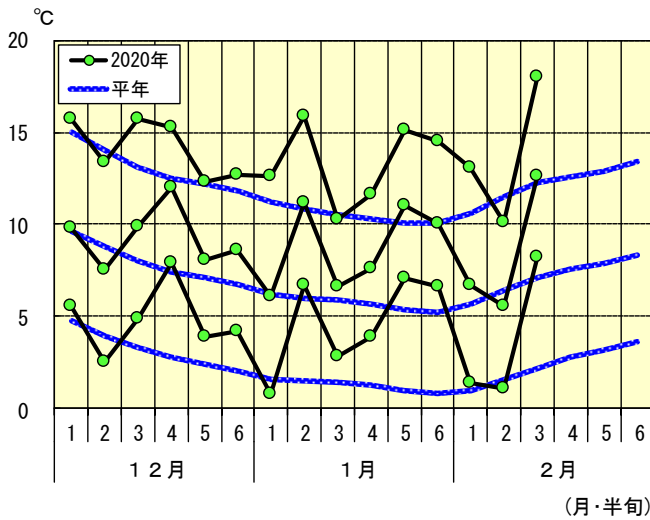


図3 熊本市の気温の推移 (平均・最高・最低)

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)  
 担当：中村、斉藤 TEL : 096-248-6490